

収穫前日まで
使用可能!

ベフラン[®] 液剤25

イミノクタジン酢酸塩

特長

1. 優れた予防効果と残効性。
2. 緑かび病、青かび病に優れた効果。
3. 黒腐病に優れた効果。
4. 白かび病にも有効。
5. 果実の汚れが少なく、光センサー選果機に対応。
6. 他剤との作用機作が異なるため、各種薬剤耐性菌にも有効。

みかん・柑橘の
貯蔵病害・果実腐敗
防除に!

ベフラン[®]液剤25 イミノクタジン酢酸塩

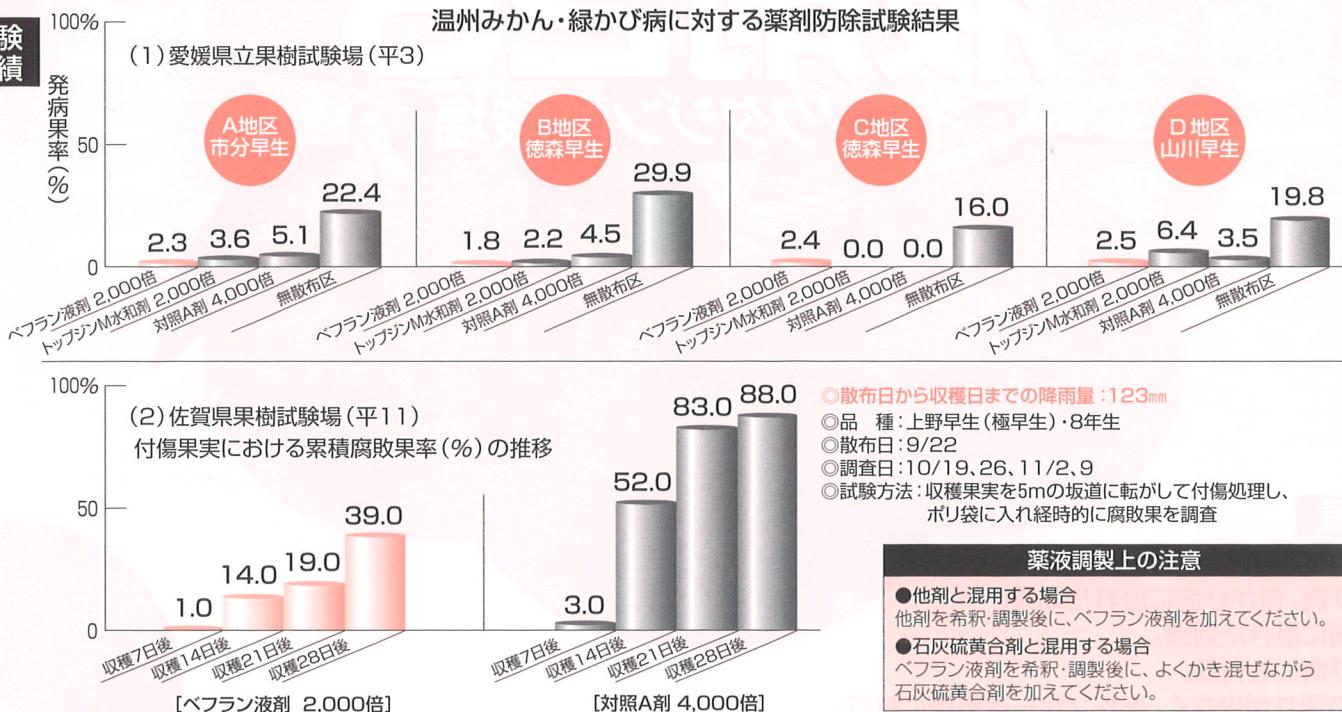
農林水産省登録
第15650号

■適用病害と使用方法

作物名	適用病害名	希釀倍数(倍)	使用時期*	総使用回数*		使用方法
				本剤	イミノクタジン	
みかん	貯蔵病害 (青かび病、緑かび病)	2,000~3,000	前日	3回	3回	散布
	貯蔵病害 (黒腐病、白かび病)	2,000				
みかん以外の かんきつ類	貯蔵病害 (青かび病、緑かび病)	2,000~3,000		2回	2回	
	貯蔵病害 (黒腐病、白かび病)	2,000				

*印は収穫物への残留回避のため、その日まで使用できる収穫前の日数と、本剤及びイミノクタジンを含む農薬の総使用回数の制限を示す。

試験成績



! 効果・薬害等の注意

- イミノクタジンを含む農薬であるので、他のイミノクタジンを含む農薬の使用回数と合わせ、作物ごとの総使用回数の範囲内で使用する。
- ボルドー液とは混用しない。(沈殿)
- かんきつの設置栽培で果実の着色終了前に使用する場合、果実に着色むらを生じるおそれがあるので、降雨時などの極端な多湿条件下での散布はさける。
- 麦類の種子消毒の場合、吹き付け処理は専用の種子消毒機を使用し、薬液が種子に均一に付着するようにする。また塗沫処理の場合は適当な容器内で種子をかき混ぜながら薬液を滴下するなどして、種子に均一に薬液を付着させる。
- りんごに使用する場合、以下のことに注意する。
 - 芽出し2週間すぎから落花後40日ごろまでは、さび果、花うでの軽微な不整葉を生ずることがあるので、この時期の散布はさける。
 - モニリア病防除に使用する場合、この時期の西洋なしには薬害を生ずるおそれがあるので、近接している場合にはかからないように注意する。
 - 紫紋羽病防除に使用する場合、苗木発芽後の処理では展葉を阻害する傾向があるので、発芽後の処理はさける。また、苗木根部に付着した土壌をできるだけ除去したのちに処理する。
- アスピラガスに使用する場合、次のことに留意する。
 - 若茎に薬液が付着すると茎が曲がることがあるので留意する。なお、このことによる株養成への影響はみられていない。
 - 夏期高温時の散布では針葉(擬葉)が白化することがあるので、使用濃度を守り、朝夕に散布する。
- 日本なし・もも・うめ等の果樹、いね、きゅうり、あぶらな科作物、まめ類には、葉に薬害を生ずることがあるので、かかるないように注意して散布する。(葉の葉斑)
- ぶどう晚腐病(休眠期散布)の防除の際、500倍では効果が劣ることがあるので、多発が予想される場合には250倍で使用する。ハウス栽培(特に加温ハウス)では、果実に葉斑を生じるおそれがあるので、散布はさける。
- 西洋なしに使用する場合、品種ル・レクチエではさび果を生じるので使用しない。
- 適用作物群に属する作物またはその新品种に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用する。
- 使用方法などを厳守する。特に初めて使用する場合は、普及指導センター・病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

! 安全使用上の注意

- 医薬用外物、取り扱いには十分注意する。誤って飲み込んだ場合には吐き出させ、直ちに医師の手当てを受けさせる。使用中に身体に異常を感じた場合には、直ちに医師の手当てを受ける。
- 眼に対して強い刺激性があるので、散布液調製時及び種子消毒の際に保護メガネを着用して、薬剤が眼に入らないよう注意する。眼に入った場合には直ちに十分に水洗し、眼科医の手当てを受ける。
- 皮ふに付着しないよう注意する。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とす。(刺激性)
- 使用の際は、防護マスク、不浸透性手袋、不浸透性防除衣などを着用する。作業後は直ちに手足・顔などを石けんでよく洗い、洗眼・うがいをするとともに、衣服を交換する。
- 作業時に着用していた衣服などは、他のものとは分けて洗濯する。
- かぶれやすい体质の人は、取り扱いに十分注意する。
- 蚕に対して毒性があるので桑にはかからないように注意して散布する。

保管: 密栓し、直射日光を避け、食品と区別して、小児の手の届かない冷涼な所。力ギをかける。盗難・紛失の際は、警察に届け出る。

- 火災時は適切な保護具を着用し、消火剤などで消火に努める。
- 漏出時は保護具を着用し、布・砂等に吸収させ回収する。
- 移送、取り扱いは、ていねいに行う。

使用量に合わせ薬液を調製し、使い切る。空容器は圃場などに放置せず、3回以上水洗し、適切に処理する。洗浄水はタンクに入れる。

- 使用前にはラベルをよく読んでください。
- ラベルの記載以外には使用しないでください。
- 本剤は小児の手の届く所には置かないでください。

※本資料は2005年9月現在の登録内容に基づいています。



JAグループ
農協 | 全農 | 経済連

JAグループ
農協 | 全農 | 経済連
全農 は登録商標 第4702318号

このチラシの記載内容は2005年9月現在のものです。

サンケイ化学株式会社
本社 〒891-0122 鹿児島市南栄2丁目9番地 ☎099(268)7588代
九州北部営業所 〒841-0025 鳥栖市曾根崎町1154-3 ☎0942(81)3808代
宮崎事務所 〒880-0056 宮崎市神宮東3-6-19(山本ビル) ☎0985(25)7051

0-0510C-70K